

令和7年度 各務原市立鵜沼第三小学校 経営構想

各務原市小・中学校教育指導の基本理念

誇り・やさしさ・活力のある児童生徒 ～一人一人が学ぶ喜びを実感～

<学校の教育目標>

美しい心で、力いっぱいやりぬく子

■自ら考え、表現する子

■自分や仲間を大切にする子

■心も体も丈夫で、たくましい子

【今日的課題】

- A I化や価値観の多様性中で人と関わり合いながらたくましく生きる力の育成
- 働き方改革と不易流行の教育の両立



【めざす学校像】

- 安全で親子共に安心できる学校
- 家庭・地域と共に歩む学校

【学校課題】

- 児童の多様性を受容しよりよい人間関係を構築する意識の更なる啓発
- 生きる力と各教育活動の関連の明確化

<めざす児童像>

「ありがとう」と素直に言える児童

→自ら「主体的・協働的」に学習し、他に感謝できる児童の育成

- 自ら考え、自分の夢や目標、日々の学習にひたむきに頑張ろうとする
- 自ら仲間と共に生活できる（仲間の気持ちを思いやる）

【指導の重点】

「多様性を受け入れ、仲間を認め合える一人一人に」

■ボランティア活動の励行

- ・自分以外の人、価値観や生育歴が違う人との相違を認識し始める小学校教育において、「人のためになる活動をする」「仲間のために働く」経験は、活動を通して心の育成に大きな影響を与える。
- ・学年の発達相応に応じたボランティア内容で、日々継続した活動を行うためにも、ボランティア手帳を活用し活動の事実の可視化を通して、意欲付けや内容及び継続性の価値付けを行う。

■一対多数の関わり方の根絶

- ・例えばそれが、相手を注意する行為であったにせよ、一対多数の構図にならないよう、「一対多数での関りはしない」ことを各学級で徹底する。
- ・学習においても同様に、発言が一対多数になった場合においても多数決の理論ではなく、マイナーな意見も必ず価値付け、「多勢の意見が正解、正義」の根絶につなげる。
- ・職員一人一人が主体的に、児童に「社会性」や「協調性」を身に付けさせられる指導力を研究、修養するとともに、「ダイバーシティ」の意味合いを確実に理解し、多様性を受け止められる全校児童集団の育成を目指す。

毎日の「さくららスタンダード」実践を通して

■担任による「居場所」ある学級づくり（日常の危機管理・家庭との情報共有の強化）

■教科担任による多面的な学級のとらえ

- ・「子供たちは、全校で育てる」という共通意識をもち、担任一人で抱え込まない体制づくり。学年を基本集団として、一人の児童を複数の目で見守り、育てる。

■全職員による個に応じた特別な支援の研修、実践

- ・特別支援コーディネーターを中心として、単純な一斉指導に終わらないための個別追究の時間を随時位置付ける研修を行う。
- ・集団の中で共に成長していく児童の育成環境を整えることを目的とした「集団づくり」と一人一人のニーズに応じた「個別の支援」をバランスよく実践するための研修を行う。